

かめむ〜速報
【む〜速】

〜東大津高校新聞部 発行〜

全国へ行く一年棋士

第60回全国高等学校将棋選手権滋賀大会、第37回全国高等学校児童王戦滋賀県予選で見事優勝を勝ち取った松本佳大さん。次に戦う舞台となるのは全国である。

非常に奥が深いゲーム

将棋とは、二人の対局者が交互に駒を動かして、相手の王(玉)を

先に捕まえたほうが勝ちになるボードゲームである。このボードゲームでは、取った相手の駒を自分で使える持ち駒というルールがある。



表彰式の様子

そのためゲームの中では一番といっても過言ではないほど複雑で奥が深いボードゲームとなっている。将棋についてあまり知らない人は多いと思うが、棋士についてはニュースなどで知っているという人も多いのではないだろうか。

昔から優れていた棋士

松本さんの現在の段位は四段だ。松本さんは小学二年生の時、両親に勧められて将棋教室に行ったことが将棋を始めるきっかけになったそうだ。初めて大会に参加したのは小学三年生であり、現在まで40回以上参加している。中学生の時に県大会で二回優勝、去年に全国大会で八位になるなどの優れた結果を残

した。

今年7月から8月に全国大会へ出場すると聞いた。今年の全国大会でも頑張ってもらいたい。

憧れる棋士は羽生善治さん

松本さんが憧れる棋士は羽生善治さんである。理由を聞いてみると、一番の理由は一度出会ったことがあるからだと言った。他にも、優しかったことや、見えていたかっこいいと思っただけでも羽生さんに憧れる理由だそう。

松本さんが考える将棋の魅力は、年齢関係なく誰でもできること、運に左右されず完全に実力によって勝敗が決まること、筋力や身長などが関係ないところだという。将棋を始めるに際して、

人によってアドバンテージがない点や、熟考をすることが増えることで日常でも考える機会が増える点も将棋の大きな魅力なのではないだろうか。

